

別海高校 酪農経営科・専攻科

●【専攻科】ニュージーランド研修から帰国しました。

平成 28年9月30日～12月5日までの 67 日間、農業特別専攻科学生 1 名がニュージーランド (NZ) 研修に参加しました。以下はその報告です。

今回の研修では、オークランドからバスに 6 時間ほど乗り、実習先の農場があるオハクネという町に行きました。オハクネは山の近くであり、標高が 800～1000m あります。



空港での出発式

今回お世話になった農場は草地在り 400ha ほどで放牧地兼一部採草地として使われており、100 以上のパドックに分けられています。



オハクネ近郊

搾乳牛約 690 頭、育成牛約 200 頭を飼養しており、NZ では中規模の農場になります。

農場を仕切っているのはリサさんという女性の方で、従業員はリサさんの息子さん、マオリ人の男性、フィリピン人の男性、ニュージーランド人の女性が働いていました。その他、大学の実習生などが短期間研修で来ていました。

牛はフリージアン種 (ホルスタイン種) が大部分を占めており、あとはジャージー種、キーンウィークロスを飼養していました。



牛を横断させているところ

飼養形態としては常時放牧を行っており、私が

行った時期には放牧地にカルシウム、マグネシウムなどのミネラルを添加したサイレージやロール、PKE とい



子牛の哺乳の様子

ったサプリメントも給与していました。

牛群は経産牛、初産牛、足の悪い牛や乳房炎に罹患した牛の 3 群に分けられていました。経産牛と乳房炎罹患牛は朝晩の 2 回搾乳で、初産牛と足の悪い牛は朝のみの搾乳でした。

乳房炎罹患牛は非常に少なく、搾乳牛 690 頭中に抗生物質による治療牛は 5 頭程度でした。

子牛は生後 1 週間くらいは簡易の育成舎で飼養し、その後子牛用のパドックに放し、哺乳とパルプ (ペレット状) 飼料を与えていました。生後 3 ヶ月ぐらいで預託し、種付け後に自分の農場へ戻ってきます。NZ の牛は日本の牛よりもかなり小さく、成牛でも日本の育成牛ほどの大きさでした。



ニュージーランドの成牛

1 頭あたりの平均乳量は 15kg ほどでした。NZ では日本と違い、乳価を乳固形分【ミルクソリッド】の割合で算出します。平成 27 年度当初の乳価は乳固形分 1 キログラム当たり、2017 年 1 月現在 4.25 NZ ドル (319 円) ですが、8 月には 4.75 ドル (356 円) まで上昇するのではないかと予想されています。乳脂肪は平均 4.5%、乳タンパクは平均 3.7% 程度で、体細胞数は約 18～19 万でした。



一緒に仕事をする仲間達

搾乳施設は片側 4 4 頭を収容出来、ヘリンボーン式のスイングパーラーでした。11 月 1 日から授精が始まり、毎朝の搾乳中に発情の発見をし、搾乳後に人工授精師による人工授精が行われていました。



治療牛を保定する仕事

実習中の主な仕事は搾乳、搾乳舎の洗浄、人工授精のサポート、子牛の給餌で、日中は生まれた子牛のピックアップ、除草剤散布、農場内の片づけ・清掃などでした。子牛が成長してくるとグループごとにパドックへ移動させる作業も行いまし

た。午後の仕事は大体 6 時前には終了し、その後は夕食、自由時間となりました。

生活していて、NZの風景はどことなく北海道に似ているなと感じました。しかし道が広く、草地も勾配が急なところが多かった印象を受けました。森林にはブナなどの大きな樹木の他に、シダ類・コケ類が密集し、大自然のパワーに満ちあふれていました。



ナショナルパークにて

研修を終えて

今回の実習を通して、まずNZの酪農のスケールの大きさに圧倒されました。「百聞は一見に如かず」といいますが、実際に自分の目で見て一つ一つの光景に驚かされました。

実習中、仕事や生活に慣れるにつれ、規模も経営体系も違うNZの酪農に触れて改めて酪農の奥深さ、おもしろさを感じました。NZ酪農はNZならではの土地、気候、歴史があるからこそできているのであって日本ではまねできるものではありませんが、その国の土地、気候に適したやり方があるのだと思いました。また放牧のノウハウや草地の管理、パドックのローテーション、牧草の生育などの話は参考になり、とても興味深かったです。ただ、英語で伝えることが難しく、また相手が話していることを理解することも難しく、英語をもっと勉強しておけばよかったと思いました。また、実習内容に関しては、先述の通常業務以外にも任される部分が多く、発情の同期化（PG投与の補助）、カウコンフォートに関する修理・管理全般、酪農ディスカッションへの参加など多岐に渡り、その経験が自信となりました。

このNZ研修を通して、酪農の奥深さを知ることができ、また海外生活を通して、他国の人と出会って共に過ごしたことによって人間的にも成長することができたと思います。



仕事後にみなさんとミーティング

最後に、今回お世話になった農場の方々、現地エージェントの杉本さん、別海町酪農後継者を育てる会、別海高校農業特別専攻科、両親、研修に

ご支援ご協力いただいた皆様にこの場を借りて心からお礼を申し上げます。

報告者：農業特別専攻科 2 年

下元 翔太

●【経営科】東北北海道実績発表大会に出場

1月19日（木）～20日（金）に、東北北海道学校農業クラブ連盟実績発表大会が帯広農業高等学校を当番校に開催されました。大会当日は十勝、釧路、オホーツクから9校10クラブ166名が参加し、全38発表がこの1年間の研究や活動の成果を競いました。本校は酪農経営科Ⅰ類、Ⅱ類、クラブ活動発表にそれぞれ1発表ずつ3発表を行いました。発表に参加した3つのグループは惜しくも全道大会出場を逃してしまいました。生徒は、結果を残せず悔しい思いをしました。来年度へ向けて研究活動の充実を図り、結果が伴うよう活動を盛り上げていきたいと思います。

●【経営科】ミルク&ナチュラルチーズフェア2017に参加

帯広藤丸百貨店にて、ミルク&ナチュラルチーズフェア2017が開催されました。本校からは2名の生徒が1月22日（日）に参加し、実習で製造したヨーグルトを販売しました。

このフェアは牛乳普及協会の主催で牛乳や乳製品の消費拡大を目的に開催されており、当日は大変多くの



生徒によるプレゼンテーション

お客様で盛り上がっておりました。

本校が用意したヨーグルトは酸味や風味などが好評で開店後1時間ほどで完売させてい



販売の様子

ただきました。また、付帯イベントの一つとして行われた活動紹介の時間には、別海町の酪農や、本校の乳加工などの取り組みを多くの来場された方に紹介しました。道内各地から出店された他の工房の製品を間近に見て、その商品数やパッケージング、販売方法などに生徒は大いに刺激を受け、今後の大きな目標を見つけることができました。

今後も、ヨーグルトやチーズなど乳製品の製造研究を進め、別海町の酪農の振興に貢献していきます。